

授業科目名	舞台芸術実習 D	担当教員	河村 竜也 近藤 のぞみ
必修の区分	選択		杉山 至 田上 豊
単位数	2 単位		尾西 教彰 深澤 南土実
授業の方法	実習		児玉 北斗 岡元 ひかる
開講年次	3 年 第 3 クォーター		石井 路子 鎌田 麻衣子 山内 健司
講義内容	これまでに履修した講義や演習、実習の学びを踏まえ、それらの知識や経験を実際のクリエーションやパフォーマンスの現場で応用ないし検証し、表現する力を培う。国内外の創作、および創作環境についての現状をふまえてコンテンポラリーな舞台芸術作品を創作する。多様な表現者と多様な観客とが、お互いを尊重して集うことのできる場としての作品をつくる。		
到達目標	1. 舞台芸術基礎実習の到達目標を礎にして、それを応用することができる。 2. 表現者として自立し、舞台芸術作品の現場で実践をすることができる。 3. お互いを尊重して、さまざまな立場の者が協働して創作活動を行うことができる。 4. 国内外の表現、および創作環境について知り、コンテンポラリーな作品創作について述べ、実践をすることができる。		
授業計画	舞台芸術実習 D は、作家性・表現手法に着目し協働的实践を経て創作発表をする。 臨地実務実習先の実習指導者や担当教員がこれまで関わった国内外の舞台芸術作品や創作スタイルを参考にしながら、授業を進める。 本科目は 80 時間の臨地実務演習等にあたり、外部の実習指導者が指導にあたることから、時間割枠外での実施がある。 また、内容については、以下の様な内容を取り扱うが、プロジェクトやセクションによってその詳細は異なる。授業内でも一定の制作時間を確保するが、進捗によっては各自が授業外で制作に取り組む必要がある。 1. 制作方針の共有 2. 題材などのリサーチ、稽古開始 3. 稽古、プランニング 4. 稽古、イメージを深める 1 5. 通し稽古、イメージの共有 1 6. 稽古、イメージを深める 2 7. 通し稽古、イメージの共有 2 8. 技術・プロダクションの打ち合わせ 9. 劇場仕込み・公演準備 10. 最終リハーサル		

	<p>11. 公演</p> <p>12. 振り返り、フィードバック</p>
事前・事後 学習	<p>事前に、個人的な準備(リサーチ、セリフ入れ、演技の課題設定、プランニング・スケジュール調整など)を十分に行なって実習に臨むこと。</p> <p>チーム内、パートナーとの練習・相談を十分に行なって創作に臨むこと。</p> <p>また、該当する場合はプロジェクトの事前学習会、中間報告会、完了報告会等への参加も必須となる。</p>
テキスト	授業内で指示する。
参考文献	授業内で指示する。
成績評価 の 基 準	制作プロセス(70%) 課題・成果物 (30%)
履修上の注 意履修要件	<p>本実習は並行する複数のプロジェクトを通して実施するため、別途公開される募集要項を熟読の上、申し込みを行うこと。</p> <p>外部の実習指導者が指導にあたることから、時間割枠外での実施がある。</p> <p>また個別に制作を行うため、授業時間外の学習・作業がある程度必要となる。</p>
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は志望理由等をもとに選考します。